

平成 27 年度第 3 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 27 年 7 月 3 日（金） 18 : 30 ～ 19 : 30

【場 所】 望来コミセン みなくる ホール

【出席者】 10 名（15 人中）

役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
会長	佐 藤 勝 彦	○	委員	小 山 玲 子	○	委員	前 田 和 也	
副会長	渡 邊 教 円	○	委員	今 光 江	○	委員	美 馬 康 子	
委員	大 黒 利 勝	○	委員	柴 田 志寿子		委員	盛 重 栄 司	
委員	小笠原 英史	○	委員	柴 田 肇	○	委員	築 田 敏 彦	○
委員	河 野 すみれ	○	委員	高 橋 敬 二	○	委員	吉 田 美 香	

※正副会長を除き、あいうえお順

支 所 ～ 西田支所長・熊谷課長

事務局 ～ 高田課長・相原主幹・永澤主任・寺内主任

(地域振興課)

地域おこし協力隊 ～ 小島隊員・沼倉隊員

【傍聴者】 2 名

- 【次 第】
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 情報交流（リラックス タイム）
 - ・地域の「ちょっといい話題」交流
 4. 報告事項
 - ・厚田複合施設基本構想案の市長への提出
 - ・第 2 回定例会補正予算 厚田区関連主要施策
 5. 協議事項
 - ・厚田区地域協議会活動報告小冊子について
 6. その他
 - ・次回会議の日程について
 7. 閉会

1. 開会

高田課長： 皆さんお晩でございます。平成27年度第3回目の地域協議会に入る前に、吉田委員、盛重委員、柴田志寿子委員、前田委員より欠席の連絡を受けておりますので、報告をさせていただきます。

平成27年度第3回石狩市厚田区地域協議会を開会致します。会長から挨拶をよろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

佐藤会長： お晩でございます。やっと良い天気と言いますか、やっぱり天気が良いと良いですね。気も晴れ晴れするというか、それで今日は私の挨拶ではなくて、皆さんもご存知かと思いますが、広報いしかり7月号はお読みになったかと思いますが、このところで石狩市長が第5期の所信表明をし、それがここに載っているんですが、その所信表明の中で、主要施策として三つ挙がっており、その2番目として「厚田区・浜益区」という項目で厚田区から浜益区に及ぶ「地域の拠点」と「道の駅」については、厚田区における複合施設構想策定委員会で2年余り議論してきた厚田複合施設の建設構想が、国で進める地方創生の拠点「道の駅」を併せ持つモデル事例として、本年1月30日に国土交通省より「重点道の駅」として選定されましたという文言から始まりまして、行く行くはこの成長戦略の中に、「厚田区」と「浜益区」それぞれの地域の特色を、この「道の駅」を拠点として、より良い発展の仕方をして欲しい。そしてそれはまた、石狩市としても市長としてもそれを支援して参りますというような所信の演説の中にこれが含まれておりましたという事は、石狩市としても「重点」なんですね。そういう意味で、地域協議会の皆さんと検討を重ねて参りまして、私達のこの夢がある形となって、それを更に将来的にそれぞれの「厚田区」や「浜益区」の埋もれている宝が日の目を見て、多くの人達に知ってもらえるような策を、これから具体的に続けていかなければならないという事で、地域協議会に課せられた課題もまた、更に具体的で、尚且つ大きなものになっていくだろうという風に思われます。そういう事で、皆さん達には大変ご努力をいただきまして、やっとそれが第一歩の「道の駅」を踏み出す事になりました。今後、これはまだ山登りで言いますと、何合目位でしょうね、皆さんと一緒に楽しく歩いてきたのは、大体5合目位なんです。私よりずっと若い頃、山登りをしていたんだけど、皆さんと一緒に鼻歌を歌いながら登れるのは、大体、5合目から6合目位で、それからちょっと真剣になるんですね。9合目辺りになったら青色吐息で、まだ、9合目までは差し掛かっておりませんので、これからですねという事で、厚田支所の皆さんは、これから尚一層の9合目にかけての息切れを多分すると思うんですけど、そういう事も踏まえて地域協議会の皆さんにも、また、色々ご意見をいただきながらと思っておりますという事で、私の挨拶ではなくて、市長の所信表明をちょっと拝借させていただきました。

3. 情報交流（リラックス タイム）

4. 報告事項

- ・ 厚田複合施設基本構想案の市長への提出（厚田支所 地域振興課 相原主幹より口頭説明）
- ・ 第2回定例会補正予算 厚田区関連主要施策（厚田支所 地域振興課 相原主幹から資料に沿って口頭説明）
- ・ 市民風車誕生記念イベント（厚田支所 地域振興課 高田課長より口頭説明） ※当日追加となった

5. 協議事項

・厚田区地域協議会活動報告小冊子について

佐藤会長： 今日の協議事項となります、「厚田区地域協議会活動報告小冊子について」という事で、これも相原主幹の方でお願い致します。

相原主幹： 「厚田地域協会活動報告小冊子」について、ご提案致します。

この小冊子につきましては、昨年度の第6回に地域協議会で必要性が協議され、3月の第11回で、今年度の進め方をどうしようかというようなところの検討もされております。その3月の地域協議会の段階では、今年度に入ってから素案の作成とそれからその素案を作る為の組織体を考えましょうというような事でまとめておまして、今日まで少し時間を要してしまいましたが、それらの事を今日、ご提示したいと思います。皆様のお手元に、協議資料01というA4の資料があると思いますが、この小冊子の構成のイメージをちょっと作ってみました。今までのお話の中で、一つ、10年の一区切りとして地域協議会の小冊子をまとめようと、それから二つ目として、これまでの地域協議会の活動、そしてそれから発生してきている色んな団体の活動のまとめ。そして最後に三つ目として、今後、五年間が延長された事もありますし、その後の事も見据えまして、今後の地域協議会、それから地域自治区等の事についてまとめた小冊子にしたいという事で、このイメージとして「地域協議会設立」、「これまで」、「これから」というような感じで表しております。

次に、具体的にどんな項目を載せたら良いだろうかというようなところが、次の2枚目という事で、裏側にあります。ここに、私の方として4点、骨格として載せてはどうかという事を並べております。

一つ目の「地域協議会の設立の経緯」は、読む中で必要だろうという事で載せております。

二つ目の「これまでの地域協議会」の活動として、行政依存型から脱却をして提案型へなってきたという事で、その中で色んな団体さんが生まれて活動されているような事を載せるのが二つ目。

三つ目に「これからの地域協議会」という事で、まず、目指す姿として示されている「近説遠来」とはどういった事なのかとか、それから昨年から長く話し合ってきた多くの住民が関わる、参画するにはどうしたら良いのかというような事をこの提言として、地域協議会でまとめて本に載せたいと思っております。

それから四つ目として、一般的な冊子の中であるようなこれまでの活動という事で、地域協議会の今までの活動や地域協議会の開催状況とか、それから委員さんと名簿という事で、そういうものを載せた活動記録を載せてはどうかと思っております。

それに伴いまして、皆さんのお手元にもう一つ、「海士町をつくる24の提案」という資料があるかと思いますが、実は、この資料は平成25年度という事で、日にちで言いますと平成26年2月の地域協議会でお配りされた資料であります。そんな訳で、皆さんはああ、こういうのあったなと思う方も多いかと思うんですが、この厚田区で今、作ろうとしている小冊子のイメージとして、特に将来に向けての提案という項目もありますので、この海士町の冊子が一つの参考になるのではという事で、今日、お付けしております。

今日、この後、時間の許す範囲でこの海士町の提案書を読んで見て、こんな事したら良いんじゃないだろうかというような意見を出す場にしたいと思っておりますので、皆さん達にお願いをしたいと思います。では、この小冊子を作るに当たり、組織体という事で、編集委

員と言いますか、そういうものをどうするかという事が3月まで話し合いをされておりますが、なかなか、この地域協議会場で色々と細かい事も含めて進めていくのは難しいところがあるので、編集委員さんを何名か募りたいと思います。その中で、3月の時にもお話しが出ておりました、過去の特に、初期の段階で苦勞をされて委員さんの中で、どの期の委員さんも大変ご苦勞されているのですが、初期の委員さんでご都合の付く方をお願い出来ればというご意見がありましたので、その委員さんの選定を事務局に一任いただければと思うんですが、現委員さんの中での編集委員さんが主体になると思いますので、もし、それがこの場で厳しければ、また、事務局の方に一任していただいて、考えたいと思いますので、その際は、是非、快くお引き受けいただければと思います。

以上、協議事項としてご提案させていただきます。

佐藤会長： はい、どうもありがとうございました。一応、前に皆さん達のご意見をいただきながら、10年の節目として地域協議会の歩みがあるとところでまとめて、そして、それを更に将来に向けて、地域の人達に一人でも多くの人達が活動者となって、地域を盛り上げていくという雰囲気も含めて、雰囲気作りが出来るという事で、その為になるべく読み易く挿絵や絵を使って、文章も出来れば中学校の2年生が読んで解る風に工夫をしながら、作っていきこうというような話し合いもされました。

資料にこの海士町の資料を付けていただきました。この海士町は、本当に財政破綻をして大変だという一歩手前で、夕張のように破綻した訳ではありませんが、そういうので島の住民が一致団結し、今じゃこういう地域づくり、街づくり、或いはそういう島の元気というものを全国に発信する、或いは、発信出来るようになりました。もっと言いますと、わざわざ東京や大都市からこの海士町に大企業の人達が研修に行って学んでくる。或いは、実際にそこで何日も泊まって研修会をしながら、その住民の一員として活躍をするという事までも進んでおります。色んな住民のアイデアを、一つ一つ具体的に積み上げてきた結果だと思います。そういう事も踏まえて、これを資料として付けてくれたと思いますので、こういうのも参考にしながら、厚田には厚田ならではの今までこう検討してきました、なるべく住民を巻き込んで地域を元気にしていこう、活性化していこうという事で、どうすれば良いかという事を何回にも亘って、皆さんからご意見を聞いて参りましたので、それらをここに少しずつ取り入れて、これまではこういう事をしてきたと、でも、これからはもっともっと地域の人達に参加してもらって、皆で地域を盛り上げていこうという、そういう事を作り上げていこうという事で、私達がこの地域協議会で色んな事を議論してきた中に、まだまだ、大きく役所依存型というんですかね、役所に言えば何とかしてくれるという考え方を持った方が、まだまだ少なくないという風に思っております。ですから、行政に依存しないで、行政から脱出して自分達で出来る事は自分達の仲間同士で何かをやっていこうという事で、その為には、仲間同士が何かをするという提案型に徐々に変わっていこうという事で、まだ、十分にそういう風になっているとは言えませんので、これまでも地域協議会がそうしてきたように、これからも更に、自治会を巻き込んで、皆で地域を活性化していこうという事で、そういう為の小冊子になればという風に願っております。

それで今、相原主幹の方からご提案が幾つかありまして、まずは、小冊子の骨格はこういう形で進めて良いかという事で、協議資料の01の2ページ目で、地域協議会が始まってからの4点がありますが、まずは骨格としてこれで良いかどうか。もう少し、こういうのを付け加えたらどうかとか、ここが抜けているなとかというのをもし、お気付きになればと思いますし、これは大項目です。この小冊子は、何回かこの地域協議会に提案がされて、

その原案が示されますので、その都度、お気づきになったところを直してもらえれば良いので、最初からきちんと決めていく必要はないと思いますので、その都度、提案されたものに対して、気が付いたところを言うていただく方式でよろしいかと思います。今のところは、この4つの骨格でこの項目で小冊子の骨格部分は、これで良いだろうという事で、これに更に肉付けをしていく訳ですけれども、小冊子の骨格はこれでよろしいでしょうか。

【発言なし】

もう少し、項目としてそれを別けた方が良いという意見も出てくると思うのですが、それはその時に、ご意見をいただければと思います。

それでは編集委員の方で、是非、こういう小冊子を自分も参加して作ってみたいという方。自薦、他薦、どうでしょうか。もし、皆さん達からご意見が無かったら、事務局で決めますので、なるべくお引き受け下さいという事でしたので、その前にじゃ僕からやってやろうという方がおりましたらと思います。

【発言なし】

そうなんですよ。なかなか私からというのは難しいですよ。良いんですけども、それでは良いでしょうか、じゃ相原主幹の方にお任せします。

相原主幹： よろしいんでしょうか。

佐藤会長： 誰か一人でも、二人でも僕がやりますという人が出てくれれば、相原主幹が感じる責任を半減出来るんですけど、いないから良いですね。

大黒委員： はい。

佐藤会長： はい、相原主幹良いようなのでお願いします。

相原主幹： 解りました。では、後ほどお願いすると思いますので、一つ、宜しくお願い致します。

佐藤会長： 「地域協議会だより」って編集も良く、凄く好評ですよ。それでは次に、スケジュールの方に進みたいと思います。

相原主幹： はい、その説明を忘れてしまいましたので、ご説明致します。

佐藤会長： お願いします。

相原主幹： スケジュールが3ページ目に書いてございまして、今回、この骨格のお話しをして、出来るだけ早く、編集委員会を設置したいと考えております。最終的に、事務局としては11月、遅くても12月に小冊子を各全戸に配りたいと思っているんですが、どうしても内容の検討という事が必要でありますので、目処として年内という事で考えてはおりますが、これが多少、前後する事もあるかと思いますが、それはご了承いただきたいと思います。大

まかに年内という事で、その間、地域協議会の方にも途中経過として、こんな風になっておりますとご説明をしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

佐藤会長： 一応、最終の目処は今年末までという事で、一応 12 月末までという事で事務局の方では考えているようです。これは、今年度の予算ですけれども、この第 5 期の地域協議会の委員の皆さん達には是非、最終的な原案のところの目は通していただきたいと思いますので、9 月を目処にした原案提示までは何度かという事で、これからは 7 月の末、8 月、9 月という事で、3 回お目通しいただくという事になると思います。そして、大体の原案をそれで通しても良いという事になれば、あとは小さな事で、例えば、イラストの工夫をしたり、吹き出しを解り易く書き込んだり、そういう小さな事の訂正や何かで、多少、時間がかかってもそれは良いという風にご了解をいただければという事で、所謂、校正の段階ですね。スケジュールはそういう事で進んでよろしいでしょうか。

築田委員： ちょっと良いですか。

佐藤会長： はいどうぞ。

築田委員： 記憶に無いもので、確認の意味でお聞きしますが、これはページ数にしてどの位の規模で、大きさもどの位というのを一度、話し合ったと思うんですけど、それと浜益と一緒にやるのか、厚田だけでやるのかというのも一回されたんではなかったかなと記憶しているんですけども、あくまでも厚田区だけの対象で、厚田区の住宅にだけ配るという考え方で今、進んでいるように感じているんですけども、それで宜しいのでしょうか。

佐藤会長： 浜益区の地域協議会とも連絡を取った訳ですが、向こうは 10 年度では出せませんという事で、15 年度にまとめて出すという事ですから、今回は、厚田区だけです。それからページ数は相原主幹お願いします。

相原主幹： ページ数は、およそ 30 ページ程度で考えておりまして、そんなに分厚いものでは無いかなと思っております。

佐藤会長： 大体、その 30 ページで予算を取っております。築田委員よろしいでしょうか。

築田委員： はい。

佐藤会長： その他。今のところ小冊子の骨格、それから編集委員、スケジュールのこの 3 点お伺いしましたがよろしいですね。

【委員了承】

佐藤会長： それでは、その編集委員を中心に具体的に進めていただきたいと思います。今日の皆さんに伺うご意見はこれだけでしたか。

相原主幹： 先ほどお話しをしました「海士町」の冊子を一度、パラパラと見ていただいたと思うん

ですけれども、僕も予め見てみまして気がついたのが、このイラストの部分なんですけれども、このイラストは何だろうなと思って見た時に、「海士町」の“しゃもじ”の絵なんです。やはり、その海士町をシンボルとするような物として、この“しゃもじ”が選ばれているんですが、同じように小冊子を作って、イラストを入れるという時に、やはりこういったシンボリックなものがあっても良いのかなという事で、なかなか難しいとは思いますので、そこら辺に囚われたくは無いですけれども、厚田でこれをシンボルとしても良いのではないかというご意見を頂戴出来ればなと思います。

佐藤会長： ひょっとしたら、ゆるキャラの事かい。要するに色んなところの地方に出ているキャラクターの事なのか、これを考えるのは難しいよね。

相原主幹： もし何かあれば。

佐藤会長： タコに鉢巻とかをしても、そんなの何処でも使っているんで、厚田だからこそとなると難しい。これは厚田のシンボルマークだと思われるようなとなると難しい。厚田こだわり隊は良く考えて作ったね夕日のマーク。あれは名前が付いているんでしたっけ。何々君とか何々ちゃんという名前。

高田課長： 付いてないです。

佐藤会長： 付けて欲しいですね。

相原主幹： もしあればの話です。

佐藤会長： 何かそういうものを案内人にしたら良いんでない。

高田課長： 厚田をイメージ出来るような。

佐藤会長： そう出来るような。

高田課長： 今委員、何か無いでしょうか。

佐藤会長： 今委員、ご指名ですけどどうでしょうか。

今委員： 募集したら良いんじゃないでしょうか。

佐藤会長： 募集ね。結構ね、小中学生なら考えるよね。

築田委員： 厚田村時代に、村の木は何ですよとか、村の花は何ですよとか、村の鳥は何にしますかというのを、今になって聞かれても解らないんですよ。厚田の木って何だったんですか。

佐藤会長： 芝桜。

相原主幹： 花は芝桜で、木はトドマツですね。

築田委員： 鳥は。

相原委員： 聞いた事が無いですね。記憶に無いですね。

佐藤会長： 鳥は無いんだ。
小山委員、先ほどのこだわり隊のロゴだけど、あれもやっぱり名前付けたいよね。

小山委員： 公募しますか。

佐藤会長： というように、相原主幹、これはここで皆さんのご意見を聞くのは大変だから、公募。

相原主幹： 公募。

佐藤会長： そう。金一封。

相原主幹： 公募で金一封ですか。

佐藤会長： 支所長、勝手にこんな事を言ったらいけませんよね。

西田支所長： それもアイデアの一つで。

佐藤会長： そういう事で、相原主幹、次に進んでください。

相原主幹： では、なかなか硬い雰囲気になっていると思いますので、この「海士町」の提案をパラパラと見た中で、例えば、コレ良いねとか、この項目何か考えたいねというのがあったらと思ったんですけど、こんな事良いよねというような事を皆さんが思っている事があれば、お聞かせ願えればなと思っているんですが、なかなか難しいでしょうか。

佐藤会長： 皆さん、海士町の冊子をパラパラと見ていただいて解るように、その大それた事を地域の人達にやってもらうなんて思っていないで、一人で出来る事という事で、一人で出来る事は何かと言ったら、犬を連れて散歩をする時に、本当は車だったら目に付かないようなところも、歩く事によってその地域だとか色んな所が発見出来ますよね。それから、皆でその地域の中を歩いてみようというのは一人でも出来る。ですから、一人でも出来る事でこんな事をやってみたらどうだろうかという提案から始めて、それこそ100人位のグループを作り上げてドカンと大きな事をやろうという事で、但し、100人を集めてドカンとやろうという時には、この仕組みはちゃんと予算を要求できるようになっているんです。一人だったら、自由自在に何があっても良いんだけど、例えば、友達同士で10人でやると言ったら、10人でやる為にこういう事をやりたいと言って市に提案をする訳です。そしてその提案が良ければ、それに対して予算が付くんですよ。ですから、そういう事ま

で含めて、地域の皆さん達が地域を活性化する為に、そういう提案をするという事です。だから、役所が提案するのでは無く、やっぱり住民が提案するという事です。自分達で出来る事、或いはやってみたい事という事です。

高田課長： 今ですね、朝市の付近で朝食を食べさせたい。食べれないかという組織を立ち上げて食堂をやらないかというような動きが出てきていて、それは漁師さんとか漁業関係者というのは、今、網外しとか、魚を外したり、売らただけで手が全然追いつかないので、そういうところまで全然出来ない訳だけれども、実際に漁師さん以外の方で、ちょっとそれを試験的にやってみて、これ位人が来て、その食堂がある事によって朝市もこういう形でお客さんもまた、集まってくるという魅力を増すというような事も含めて、将来的には漁師関係者の方々にやっていただきたいという想いの中で、キッカケづくりを試験的に食堂をやってみて、出来ないかという事で、今ちょっと検討をしております、組織としてはまだ立ち上がっていない訳ですけど、水面下でちょっと動いているというか、何人かの人方が色々と考えているんですよ。やるに当たっても、漁師さんとか漁協とか女性部とか、朝市部会との協議が必要になるんですけども、そんな動きもちょっと一つあります。

佐藤会長： 今の高田課長からのお話にあった、朝一食堂ですが、我々が何かを提案する時に、やっぱり現状は朝市があるという現状ですよ。ところが、現状の朝市に来る札幌のお客さん達がそこで買った新鮮な物を食べたいよねという課題がある訳ですよ。これは、例えば、函館に行ったり、釧路に行ったりして、朝市に行ったら皆そこに食堂があったり、新鮮な刺身を食べたりする経験を持っている人達がやっぱり厚田に来たら、何か物足りないと思うという課題がある訳です。その課題を解決する為に、漁師の方にやって下さいと言っても、漁師さんは忙しくてなかなか出来ないから、それを代替で時間のある人で誰か出来る人がいないかなという提案です。だからちょっと知識のある人が魚を捌いて、朝一番の賑わう時間だけに、ちょっと朝一食堂をやってみようかなという試みで、失敗するかも知れないので、あんまり資本を投じて大々的にやって失敗したら大変なので、そうでは無く、なるべく失敗しても経費の掛からないようにしなければならぬし、但し、これは保健所の許可が必要なので、だからバラックのテント張りでは、ちょっと出来ない。そういうところをやっぱり、ある程度の基金を投じながらやっておく。でも、Aさんが失敗しても、Bさんが次にちょっと頭を捻って工夫をして成功するかも知れない。商売というのは、同じ事をしても成功する人と失敗する人がいるんですよ。ですから、どんどんやりたい人がそれをやってみて成功をする。そして、そういう賑わいを地域に作っていくような将来の姿が描けるだろうという事です。そういう提案もやっぱり重要だという風に思えますという事で、相原主幹、皆さんに今日、お渡しした「海士町をつくる24の提案」をちょっと目を通していただきながら、厚田だったらこういう事が出来そうとか、こういう事をやったらどうだろうかという事で、次回に、そういう色んな皆さん方からご提案をいただくという事でどうでしょうか。

相原主幹： 今日に限った話ではないと思いますので、今後とも、そういう事でご提案をいただければと思います。

佐藤会長： そういう提案を幾つかいただいて、これまでやってきた訳ですが、これからはまた、こういう事で、地域の人達と一緒にやっていきませんかというこれからという事で、「近説遠

来」に向けての皆さん達からの提案という形になります。それから、もう一つ大きいのは「重点道の駅」ですよね。ここで、地域の人達がどれだけ関わって、地域を盛り上げていくかというような提案も当然、出てくると思います。

よろしいでしょうか。そういう事で、今日、この提案を委員の皆さんに考えていただきながら、将来に向けてこういう事はどうかという事で、それを次回の地域協議会の時に、それぞれご意見をいただくという事で、そして皆で面白がって、それをもっとこうすれば面白そうになるという事を肉付けをしていただければという風に思いますという事でよろしいでしょうか。

皆さん方から、何かご質問があればどうぞという事で、珍しく地域協議会で次回に向けての宿題が出ました。

6. その他

次回会議等の日程について

平成 27 年 7 月 30 日（木） 18 : 30 ～ 虹が原会館 ホール

7. 閉会

平成 27 年 7 月 30 日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会
会 長 佐藤 勝彦